

大学生の伝統的住まいに対する理解と家庭科教育の可能性

小林 文香*, 妹尾 理子**

(2019年11月29日 受理)

University Students' Understanding of Traditional Style House and Possibility of Home Economics

Fumika KOBAYASHI*, Michiko SENO**

Keywords: Housing education 住教育, Dwelling culture 住文化, Home economics 家庭科

1. はじめに

近年、学校教育において、伝統文化に関する学習が重視されている。住文化に関する内容も社会科、家庭科の教科書などで充実してきている¹⁾。また、学習指導要領(平成29年)の家庭科²⁻⁴⁾の記述をみると、小学校および中学校学習指導要領には「日本の伝統的な生活についても扱い、生活文化に気付くことができるよう配慮すること」^{注1)}、高等学校学習指導要領には「日本の伝統的な和食、和服及び和室などを取り上げ、生活文化の継承・創造の重要性に気付くことができるように留意すること」^{注2)}と記されている。

一方で、現代の若者が実際に伝統的な住まいで生活することは少ない。特に都市部の若者にとっては、建築物にしても、住生活にしても、伝統的な住まいに対する実感が乏しいのが現状だろう。このような現状において、若者の住文化に対する理解の様子を把握し、住教育で取り上げる内容や方法を再検討する必要があると考える。

本研究に先立ち、妹尾が行った香川県の中학생と大学生を対象に実施したアンケート調査では両者ともに住文化の理解が十分にできていないという結果を得ている⁵⁾。しかし、調査地域が香川県に限定されている。そこで本研究では、より広く大学生の伝統的な住まいや住生活に関する知識・理解の実態を把握するために同じ調査票を用いて広島県と東京都の大学生を対象に調査を行い、今後の住文化教育のあり方を検討することを目的とする。

2. 研究方法

広島県内大学の女子学生102名、東京都内大学の女子学生56名を対象に2016年9月にアンケート調査を行った。住生活関係の講義科目で調査票を配布し、回収した。回収率は2大学とも100%である。調査内容は日本の伝統的な住まいや建築に関する用語の理解、用語を知ったきっかけ、畳の長所・短所についての考えなどである。

3. 調査結果

(1) 説明文による住まい・建築に関する用語の理解

「簾」「障子」「敷居」「襖」「樋」「すのこ」「莫塵」「納戸」「漆喰」の9つの住宅の部位・造作や生活用具に関する説明文を読んで、17の選択肢「簾」「障子」「敷居」「襖」「樋」「すのこ」「莫塵」「納戸」「漆喰」「桶」「暖簾」「床の間」「茶の間」「屏風」「押し入れ」「羽目板」「珪藻土」の中から該当する用語を選んでもらった^{注3)}。結果を表1に示す。正答が最も高かったのは「莫塵」で84.2%、最低正答率は「敷居」40.5%、平均正答率は60.8%だった。

7割以上の正答率だった用語は生活で使う「莫塵」「簾」「障子」であり、誤った回答は特定の選択肢に集中することなく分散している。誤答した回答者は説明文の内容を読み取るための住まい・建築に関する知識が不十分であると考えられる。また、正答率が低かった用語は建築物や材料に関するもので、「漆喰」49.4%、「納戸」43.7%、「敷居」40.5%だった。「漆喰」では説明文「蔵の外壁や瓦の接着に使われる、消石灰を主成分とする塗り壁材。調湿性を備え、耐火性・耐久性にも優れている。」に対し、正答に続いて多かった回答は「珪藻土」40.5%だった。回答者は「珪藻土」が壁に塗るものであること

* 広島女学院大学人間生活学部生活デザイン学科教授

** 香川大学教育学部学校教育教員養成課程教授

表1 説明文による住まい・建築に関する用語の理解

(n = 158)

	提示した説明文 (50音順)								(%)
	莫塵	敷居	漆喰	障子	簾	すのこ	樋	納戸	襖
押し入れ	0	0	0	0	0	0	0	50.6	0.6
桶おけ	0	0	0	0	1.3	10.8	9.5	0	0.6
珪藻土	1.3	1.3	40.5	0	0	0.6	9.5	0	1.3
莫塵	84.2	1.3	0	0	0.6	1.3	0	0	1.9
敷居	3.8	40.5	0.6	1.3	0.6	1.3	0.6	0	1.9
漆喰	0	3.2	49.4	0	0	0.6	6.3	1.3	0
障子	0	3.2	0.6	73.4	0.6	0	0	0	13.3
簾	2.5	0.6	0	3.2	74.7	0.6	3.2	0	0.6
すのこ	1.9	1.9	1.3	0	0.6	69.0	1.9	0	0.6
茶の間	0.6	0.6	0.6	0	0	0	0.6	1.9	0
樋とい	0.6	12.0	0.6	0.6	0	1.3	53.8	0	2.5
床の間	0.6	0	0.6	0	0	0.6	0	1.9	0
納戸	0.6	1.3	2.5	0.6	0.6	0.6	2.5	43.7	3.2
暖簾	0	0.6	0	4.4	18.4	0	0	0	0.6
羽目板	1.3	22.2	0.6	1.9	0	8.9	5.1	0	4.4
屏風	0	0	0	3.2	1.3	1.3	1.3	0	4.4
襖	0	6.3	0.6	8.9	0	0	0	0	58.9
無回答	2.5	5.1	1.9	2.5	1.3	3.2	5.7	0.6	5.1

選択肢の用語
(五十音順)

表2 写真による住まい・建築の用語の理解

(n = 158)

	提示した写真 (50音順)						(%)	
	井戸	縁側	うだつ	かまど	蚊帳	軒	欄間	
井戸	96.8	0.0	0	0.6	0	0	0.0	
うだつ	0	0.6	20.3	0	1.3	0.6	5.1	
縁側	0.6	88.0	0.6	0	0.6	1.3	0.6	
縁台	0	3.2	7.0	0.6	0	1.9	3.2	
かまど	0	0	0	80.4	0	0	0	
鴨居	0.6	0	24.1	0	0	5.1	13.3	
蚊帳	0	0	0	0.6	88.0	0.6	1.9	
床の間	0	2.5	0	0	2.5	0	0.6	
土間	0	1.3	0	13.9	0	2.5	0	
軒	0	0.0	3.8	0	0	73.4	1.3	
梁	0	0	22.2	0	0.6	8.9	10.1	
なまこ壁	0	0.6	9.5	0.6	0	0	8.9	
御簾	0	1.3	2.5	0.6	3.2	1.3	3.8	
欄間	0	0	1.3	0	0.6	1.3	42.4	
無回答	1.9	2.5	8.9	2.5	3.2	3.2	8.9	

選択肢の用語
(五十音順)

であることを理解しており、正確ではないものの説明文から該当する用語を類推している様子がわかる。また、「納戸」は説明文「主に収納に使われる小部屋」に対し、正答を超えて、「押し入れ」と回答した者が50.6%となった。この結果より、「漆喰」と「納戸」については、説明文をもとに該当する用語に近い用語が同程度選択されており、おおよそのイメージはあるが正確な用語を知ら

ない様子がわかる。最も正答率が低かった「敷居」は説明文「引き戸・障子・ふすまなどを開閉するための溝やレールのついた横木」に対し、正答に続いて「羽目板」22.2%、「樋」12.0%が続く。誤答は全体的に分散しており、正解した学生とそうでない学生で、住まい・建築に関する知識に差がある様子がわかる。

(2) 写真による住まい・建築の用語の理解

「軒」「うだつ」「蚊帳」「かまど」「欄間」「縁側」「井戸」の7つの住宅の部位・造作や生活用具を示す写真を示し、選択肢「土間」「鴨居」「縁台」「井戸」「軒」「なまこ壁」「縁側」「梁」「柵（以下、うだつ）」「欄間」「かまど」「蚊帳」「床の間」「御簾」から該当する用語を聞いた。結果を表2に示す。正答が最も高かったのは「井戸」96.8%、最低正答率は「うだつ」20.3%、平均正答率は69.9%だった。

回答をみると、「欄間」42.3%の誤答は「鴨居」13.3%、「梁」10.1%だった。「欄間」の写真を見て、鴨居、梁を選んでいるため、鴨居、梁が室内上部にある水平方向に架けられた材であることは理解しているといえる。また、最も正答率が低かった「うだつ」20.3%の誤答では、「鴨居」24.1%および「梁」22.2%が「うだつ」の正答率を上回っており、他の質問に比べて「うだつ」の理解が乏しい様子がわかる。また、「欄間」や「うだつ」は他の質問より無回答者が多く、9%近くを占めた。これは正答がわからず選択を放棄したと推測する。一方、回答として挙げられた用語をみると、「欄間」「うだつ」ともに「梁」「鴨居」が誤答として挙がっていることから、「梁」「鴨居」についても理解が十分ではないといえる。

(3) 住まい・建築の用語による写真の理解

「囲炉裏」「垣」「床の間」「屏風」について、これらの用語に該当する写真を聞いた。結果を表3に示す。最も正答率が高かったのは「屏風」94.9%、最も正答率が低かったのは「床の間」56.3%、平均正答率69.6%であった。誤答をみると、「囲炉裏」では火鉢の写真を選んだ学生が23.4%、七輪の写真を選んだ学生が9.5%であった。

表3 住まい・建築の用語による写真の理解

(n = 158)

	提示した用語 (50音順)				(%)
	囲炉裏	垣	床の間	屏風	
選択肢の 写真 (五十音順)					
囲炉裏	65.8	1.3	8.2	0	
垣	0	61.4	0	0	
七輪	9.5	0	0	0	
衝立	0	0.6	0	2.5	
床の間	0	0	56.3	1.9	
なまこ壁	0.6	32.9	0.6	0	
寝床	0	0	34.2	0	
火鉢	23.4	2.5	0	0	
屏風	0	0	0	94.9	
無回答	0.6	1.3	1	0.6	

また、「垣」ではなまこ壁の写真を選んだ学生が32.9%、「床の間」では寝床^{注4)}の写真を選んだ学生が34.2%であった。回答の様子から「囲炉裏」は火を使う道具、「垣」は住宅の外回りに関係するもの、「床の間」は居住空間に関係するものであると認識している様子が読み取れる。しかし、4割近い学生が「囲炉裏」「垣」「床の間」の理解が正確ではないことがわかる。

また、前述の2つの質問と平均正答率を比較すると、写真から用語を選択する質問、本節の用語から写真を選択する質問、説明文から用語を選択する質問の順に平均正答率が低くなっていく。学生にとっては、写真から用語を類推することは比較的たやすいが、説明文や用語から実物をイメージすることは難しいといえる。

(4) 畳の長所・短所についての考え

畳のある住宅での居住経験を聞いたところ、居住経験がある学生は91.8%だった。畳の長所・短所についての考えを自由記述形式で聞いたところ、長所は147名、短所は144名の回答を得た。記述内容を分類した結果を図1、図2に示す。畳の長所で最も多かった記述は「良い香り」

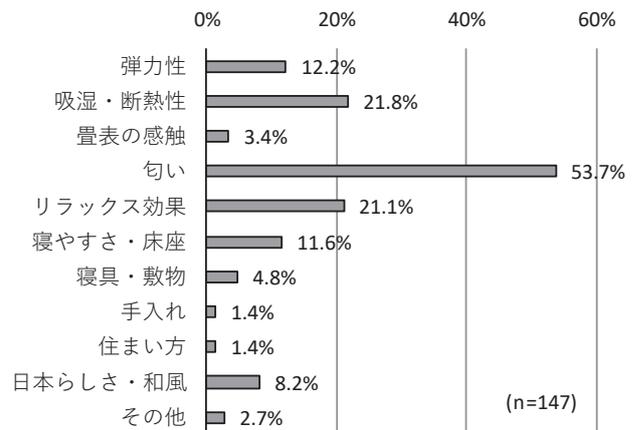


図1 畳の長所の自由記述回答

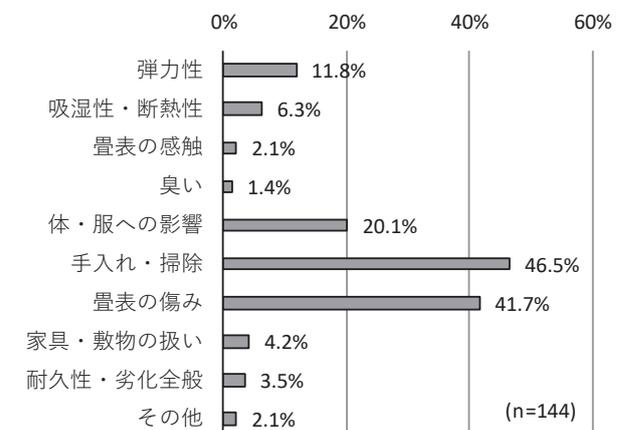


図2 畳の短所の自由記述回答

がする」「い草の香り」などの匂いに関するもので53.7%だった。次いで、「夏涼しく、冬暖かい」「ベタつかない(夏)、あたたかみがある(冬)」「湿気を吸湿する」など畳の吸湿性や断熱性などの性能に関する記述が21.8%、「落ち着くところ」「香りがよく落ち着く」「い草の香りがして、リラックスできる」「安心感」など鎮静効果や居心地に関する記述が21.1%だった。

畳の短所で最も多かった記述は、「掃除が大変」「手入れが大変」「定期的に張りかえをるところ」「液体をこぼすと染み込む」「カビが生える」など手入れや掃除に関するもので46.5%だった。次いで、「傷みやすい」「ささくれ立つ」「ぼろぼろになる」「日焼け」「染みが消えない」など畳表の傷みについての記述が41.7%、「かたいため、体が痛くなる」「座った際などに畳に触れていた部分にあとがつくこと」「古いとささくれ立って痛い」「くずが服につく」など、体や服への影響に関する記述が20.1%だった。

また、畳の長所と短所に関する学生の考えを比較すると、相対する認識を持っている様子が見える。主な自由記述を比較した結果を表4に示す。例えば、中学校家庭科教科書では畳の長所として保温性、吸湿性を挙げているが^{注5)}、今回の調査では長所に「夏涼しい」「冬あたたかい」をあげる学生がいる一方、短所に「夏あついところ」「湿気を吸う」「寒い」と答える学生がいる。同様に、畳の弾力性についても長所として「やわらかい」と答える学生がいる一方、短所として「硬い」と答える学

生がいる。また、畳表が傷んだ時に畳表の裏返しや畳表を張り替えられることが畳の特徴であるが、このことを短所としてとらえている学生がいる。

今回の調査では回答理由を聞いていないため、回答理由は不明であるが、「畳が冷たい」、「カビが生える」などは、室内環境の調整が家庭ごとに異なるためと考えられる。また、フローリングと比較して、畳の手入れは面倒という認識が多かった。

(5) 用語を知ったきっかけ

今回のアンケート調査の質問に用いた用語を知ったきっかけを複数回答で聞いた結果を図3に示す。きっかけ

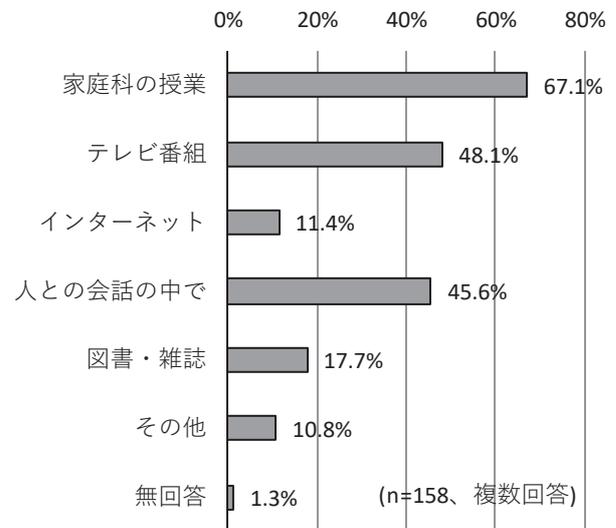


図3 用語を知ったきっかけ

表4 主な自由記述の比較

	長 所	短 所
弾力性	<ul style="list-style-type: none"> 寝そべったり座ったりするのに、やわらかいのでちょうどよく気持ちが良い フローリングと違い下に何も敷かなくても柔らかい所 	<ul style="list-style-type: none"> かたい かたいため、長時間すわっていると体が痛くなりやすい
調湿性 断熱性	<ul style="list-style-type: none"> 夏涼しく、冬暖かい 吸湿性 べたっとしない 	<ul style="list-style-type: none"> 夏あついところ 寒い 湿気を吸う
手入れ 維持管理	<ul style="list-style-type: none"> 裏返しても使える ゴミが目立たない 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に張りかえをるところ 汚れたら取り替えなければならない 手入れが大変 掃除が大変／掃除機をかける際に“め”に気を使う フローリングのようにふけば済むわけではない カビが生える／ダニがわく 色あせる ささくれる／毛羽立つ
住まい方 家具 用途	<ul style="list-style-type: none"> 季節に合わせて敷物をひかなくても良い 寝転がると抵抗が少ない、場所を有効的に(柔軟に)利用できる 床座が可能、そのまま寝られる 布団で寝られるところ 	<ul style="list-style-type: none"> 寝たら体に跡がつく 家具の跡がつく (毛羽立ったい草が)体に刺さる、痛い

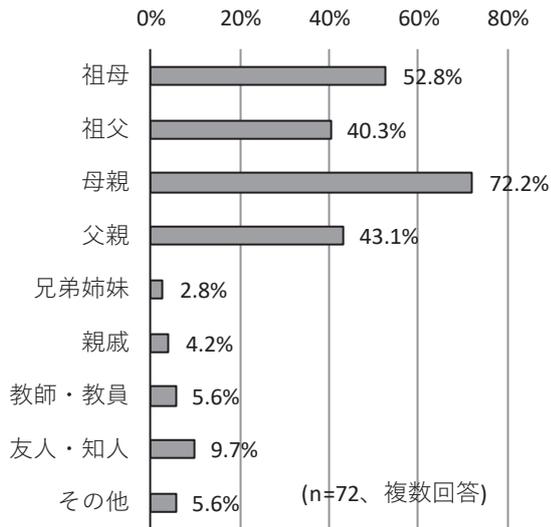


図4 用語を知るきっかけの会話の相手

けとして最も多かったものは「家庭科の授業」67.1%、次いで「テレビ番組」48.1%、「人との会話の中で」45.6%であった。「その他」には「大学の授業」「高校での建築の授業」があげられた。選択肢を1つだけ選んだ学生は全体の36.1%、57名であり、単一選択が最も多かったのは「家庭科の授業」で、「家庭科の授業」の回答者106名のうち、「家庭科の授業」のみを選択した学生は31名であった。

また、「人との会話の中で」と回答した72名に会話の相手を自由記述で聞いた結果を図4に示す。会話の相手でもっとも多かったのは「母親」で72.2%だった。次いで「祖母」52.8%、「父親」43.1%であった。なお、「母親」をあげた学生54名中、「母親」のみをあげた学生は14名である。同じく、「祖母」のみをあげた学生は1名、「父親」だけをあげた学生は2名であり、残りの学生は「祖母、母」「祖父、母」「祖母、父、母」など複数の相手をあげている。

4. まとめ

大学生の伝統的な住まいや住生活に関する知識・理解の実態を把握するために調査を行った。

伝統的住まい・建築に関する用語については、説明文や用語だけの質問に比べ、写真を使った質問は正答率が高く、生活で用いる物に比べ、建築部位の用語の理解は乏しかった。畳については、畳の性能や手入れ方法について、長所と捉える学生がいれば、短所として捉える学生もいて、学生たちの畳に対する生活実感が異なる様子がわかった。また、伝統的住まい・建築に関する用語を知るきっかけとして家庭科の授業の役割が大きいことが確認できた。これらより、家庭科の授業では写真やイラ

ストを見せるだけでなく、畳などに実際に触るなどの体験を取り入れることも必要と考える。さらに、若者の住文化理解を深めるには、建物博物館、郷土資料館、伝統的建造物などの社会教育施設での実体験や、絵本やアニメーションなどを利用した疑似体験などを取り入れることが有効ではないだろうか。いずれにせよ、目の前の若者たちの興味・関心や住生活の実態、住文化の経験や理解度の違いをふまえた上で、教育方法を工夫することが今後の住文化教育の課題であるといえよう。

謝辞

アンケート調査に協力いただいた学生の方々に深く感謝いたします。

なお、本研究はJSPS 科研費16K00752の助成を受けた。また、研究の一部は日本家政学会第71回大会にて口頭発表を行ったものである。

注

- 1) 小学校学習指導要領第2章第8節家庭「2 内容の取扱い」および中学校学習指導要領第2章第8節技術・家庭「3 内容の取扱い」(3)で、「B 衣食住の生活」に関する取扱いに記されている。
- 2) 家庭基礎の「3 内容の取扱い」(2)イにおいて「日本と世界の衣食住に関わる文化についても触れること。その際、日本の伝統的な和食、和服及び和室などを取り上げ、生活文化の継承・創造の重要性に気付くことができるように留意すること」と記されている。また、家庭総合では、「2 内容」「B 衣食住の生活の自立と設計」「(3) 住生活の科学と文化」に「日本の住文化の継承・創造について考察し、工夫すること。」、「3 内容の取扱い」(2)イに「和食、和服及び和室などを取り上げ、日本の伝統的な衣食住に関わる生活文化やその継承・創造を扱うこと。」と記されている。
- 3) アンケート調査に用いた住まい・建築に関する用語にはふりがなをふって提示した。
- 4) 畳敷き部屋に布団が敷いてある写真を提示した。
- 5) 東京書籍の教科書には「畳には保温性と吸湿性があるため、冬は暖かく、夏はさらりとした感触が心地よく、日本の暮らしに適しています」とある^{6)~8)}。開隆堂では「たみの吸湿性や弾力性が素足の生活に合う。」とある⁹⁾¹⁰⁾。

引用文献

- 1) 妹尾理子, 小学校教科書に描かれる住文化に関する内容住文化教育の充実に向けた基礎的研究として, 日本建築学会学術講演梗概集(教育), pp. 1~2, 2017
- 2) 小学校学習指導要領(平成29年告示)第2章第8節家庭, 文部科学省, 2017
- 3) 中学校学習指導要領(平成29年告示)第2章第8節技

- 術・家庭, 文部科学省, 2017
- 4) 高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 第2章第9節家庭, 文部科学省, 2018
 - 5) 妹尾理子, 日本の伝統的住まい・建築に関する若者の理解の現状と課題:住教育の充実に向けた基礎調査として, 日本建築学会学術講演梗概集 (教育), pp. 41~42, 2015
 - 6) 新編新しい技術・家庭 家庭分野, 東京書籍, 平成20年 (2008), p. 135
 - 7) 新編新しい技術・家庭 家庭分野, 東京書籍, 平成26年 (2014), p. 127, p. 141
 - 8) 新編新しい技術・家庭 家庭分野, 東京書籍, 平成28年 (2016), pp. 132~133
 - 9) 技術・家庭 家庭分野, 開隆堂, 平成26年 (2014), p. 179
 - 10) 技術・家庭 家庭分野, 開隆堂, 平成28年 (2016), p. 153, p. 165